

6次産業化の成功要因とその実現可能性

—高知県安芸市を事例として—

学生氏名 影山夕記

指導教員 肥前洋一

研究背景

日本の地方では、人口減少や農業従事者の高齢化により、農業の担い手不足が深刻化している。こうした課題への対応策として、生産・加工・販売を一体化する6次産業化が注目されている。

高知県安芸市は農業が盛んな地域であるが、その強みを十分に活かしきれていない。本研究では、他地域の成功事例を踏まえ、安芸市における6次産業化の可能性を検討する。

研究目的

本研究は、高知県安芸市における6次産業化の成功要因を明らかにするとともに、推進上の課題を整理し、その解決策を検討することを目的とする。

研究方法

先行研究をもとに6次産業化の成功要因を整理し、それらの要因に照らして安芸市の統計データや事例を分析する。そのうえで、現状の課題を明らかにし、具体的な対応策を提案する。

分析結果

先行研究の整理により、6次産業化の成功には「コミュニティ形成」「商品の高付加価値化」「独自性のある商品展開」「道の駅主導」などが重要であることが明らかとなった。

これらの要因を安芸市の現状と照合した結果、特産品を活かした独自性の高い商品展開は有しているものの、他の要因については十分とはいえず、課題が残されていることが検証された。また、成功には単一の要因だけでなく、複数の要因を組み合わせることで重要であり、一つの取り組みのみでは十分な効果は得られにくいことが示唆された。

さらに、既存の商品展開を基盤としつつ、道の駅を拠点とした取り組みや情報発信の強化を組み合わせることで効果が高まる可能性がある。一方で、現地販売への依存という課題が確認され、インターネットを活用した情報発信および販路拡大の必要性が示された。

考察・結論

安芸市では、既に一定の独自性を持つ商品を基盤としながら、道の駅主導の取り組みを強化することが有効であると考えられる。特に、情報発信力の弱さが課題であるため、SNSや公式ホームページの活用、インターネット販売の強化などを通じて、情報発信と販路拡大を図ることが重要である。